

漁業被害意識調査の設計

1. 調査の目的と経緯

えりも地域ゼニガタアザラシ管理の目的は、ゼニガタアザラシ個体群と地域社会との共存を図ることである。サケの不漁が続いている現状をふまえ、ゼニガタアザラシとの共存にどのような意識を持っているのかを把握し、将来的な共存のあり方の検討に活用したい。そのため、漁業者の被害意識と被害状況の把握し、モニタリングを行うこととする。

被害意識の評価については、被害金額や被害割合の推移と、ゼニガタアザラシに対する被害意識の変化が一致しないことが予想される。そのため、被害をここまで減らせばよいと単純にゴールを定めることは難しく、被害がどこまでであれば許容できるか(=受忍限度)等も含めて、被害規模と被害意識を総合的に把握することが必要である。

また、直接金額に反映されない被害(被害が多くて漁をやめた、など)も被害意識に影響する可能性があるため、聞き取り項目に含めることとする。

北海道ゴマフアザラシ管理計画の中で、北海道が実施する漁業被害調査では、漁業規模や被害規模などを各漁協に対して聞き取り調査を行い、総合的に地域の状況を把握しており、ゼニガタアザラシについてもこの調査を参考に聞き取り及びアンケートを行いたい。

2. 調査の設計

(1) 調査方法

方法：聞き取り及びアンケート

時期：秋定置実施期間中(令和4年度以降)

対象：ゼニガタアザラシ被害が多く発生している東洋地区及び岬地区を中心に実施

※実施のイメージ

秋定置終盤にえりも RO が各番屋を訪問し、対面での聞き取り調査と一部の調査項目については無記名でアンケート調査を行い、その場で用紙を回収する。アンケート調査については、属性などで回答にばらつきがあると想定される項目を対象とする。

(2) 調査項目

北海道の漁業被害調査、昨年度実施業務の「平成31年度えりも地域ゼニガタアザラシ被害意識評価業務」及びこれまでの議論を参考に設定した。

項目	既存データ	聞き取り	アンケート
① 地域の漁業について(漁業規模) ・魚種、漁法、就業漁家数、水揚げ kg、経年変化	総漁獲量(kg)は データあり	○	
② 漁業被害について(被害規模)			

<ul style="list-style-type: none"> ・ゼニガタアザラシの被害(魚種、漁業種、漁期、被害状況、何年前から、今年・昨年・一昨年の状況) ・ゼニガタアザラシ以外の被害(同上) ・経済的な被害以外の被害(被害があるので漁をやめた、など) ・被害の変化はあるか ・どのくらいの被害であれば許容できるか(受忍限度) 	被害割合はデータあり	○	○
<p>③ アザラシについて(生息状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目撃頭数 ・目撃頻度 		○	○
<p>④ 被害対策について(被害対策効果、今後の被害対策の参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境省の実施している対策(捕獲、防除網、忌避装置)に対する評価、効果は感じるか ・環境省が実施している対策以外に何か対策をしているか、効果はあるか ・防除網は実施しているか、効果はあるか ・今後どのような対策をしたいか ・どのくらいの労力をかけることができるか 		○	○
<p>⑤ アザラシとの共生について(将来にわたる共存を考える)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉、脂、皮の利活用 ・観光の利用 ・共生している社会のイメージ ・アザラシに対する思い 		○	○

※被害意識に関わる調査項目：赤字(=被害の規模、対策の効果有無と費用対効果、受忍限度、アザラシに対する感情)

3. 課題

- ・データの集計・分析方法(コレスポンデンス分析?)
- ・設問や選択肢の設定(バイアスを生じない工夫)
- ・定量的な情報と定性的な情報にまたがるため、総合的に評価する必要がある
⇒専門家にヒアリングを行いながら、来年度詳細を決定する